

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

愛媛県

学校名

西予市立宇和中学校

人権課題

子供

対象学年・
取り扱った教科等全学年・
道徳科、特別活動、学校行事

目標・人権教育のねらい

- ・互いの個性や良さに気付き、互いに支え合い、助け合い、認め合う姿勢を育む。
- ・いじめに気付き、いじめを許さない雰囲気づくりに努め、勇気を持って正しい行動を取ることができる態度を身に付けさせる。

実施した内容

- ・年間指導計画に位置付けられているいじめ問題を取り扱った授業を各学年で実施し、いじめについての考えを深める。
- ・周りの良さや感謝の気持ちを綴る「人権の木」の活動を行ったり、「思いやり宣言」の改訂を通して、自他を尊重することの大切さについて気付く。
- ・人権劇や福祉体験学習、ボランティア活動、学校行事等、一人一人が実際に体験することで学ぶ。

工夫した点

- ・道徳科では、学年やクラスの実態に合った教材や進め方ができるよう、学年団で意見交換を密に行うとともに、学習のあらゆる場面で「差別をなくす側に立つこと」を意識させた。
- ・すべての授業において対話重視の展開を心掛け、自分や他者を大切に思う心情を育てた。
- ・「人権の木」の活動では、メッセージを掲示したり、メッセージを届けたりして、自他の良さに気付くことができるようにした。
- ・生徒会活動や学校行事等の充実を図ることで、体験活動により他者を深く理解し、相手の立場に立った言動ができるよう工夫した。

他教科との
関連

- ・社会科において基本的人権について学習した。
- ・学級活動においていじめの構図について学習した。
- ・「えひめいじめSTOP! デイ」に参加し、傍観者にならないための方策について学習した。

事業成果

- ・知識的側面：「他人の人権を侵害する行為は行ってはならないと思うか」に対して、98%を超える肯定的回答率を維持できた。
- ・価値・態度的側面：「周りの良いところを感じることもあるか」に対して、97%の肯定的回答率を得た。
- ・技能的側面：「いじめやいじめにつながる行為を止めようとしているか」に対して、9割を超える肯定的回答率を維持できた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

愛媛県

学校名

西予市立宇和中学校

人権課題

女性

対象学年・
取り扱った教科等

中学3年生・学級活動

目標・人権教育のねらい

- ・ジェンダーバイアスに捉われることなく、誰もが自分らしく生きるために必要なことを考え、その社会の実現のために行動する意欲を育てる。
- ・ジェンダーフリーの世の中にしていくために、どんなことを大切にしていけば良いかを考え、明らかにすることにより、自ら行動しようとする姿勢を育む。

実施した内容

- ・「ジェンダーバイアス | SDGs～小さなことからコツコツと～」の学習において、性別による偏見や差別について考える。
- ・家庭や学校生活において、自分たちの意識の中に固定的な性別役割分担意識がないかグループで話し合う。

工夫した点

- ・学校生活など、生徒の身近なところでの違和感を改めて考えさせることで、自分の中にある無意識な固定観念に気付かせた。
- ・本時の学習内容の定着と今後の実践意欲を高めるために、外部講師とリモートで交流した。
- ・授業の様子や、生徒の感想などを学級通信やホームページに掲載し、保護者に伝え、家庭で話し合う場面をつくった。

他教科との
関連

- ・社会科において、男女共同参画について学習した。
- ・技術・家庭科において、家族について学習した。

事業成果

- ・知識的側面：「考え方や感じ方には人それぞれ違いがあってよいと思うか」に対して、肯定的回答率が増え、99%になった。
- ・価値・態度的側面：ジェンダーフリーの世の中にしていくために、大切なことを真剣に考える姿勢が見られた。
- ・技能的側面：それぞれの違いを、良さとして認め合う姿がより見られるようになった。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

愛媛県

学校名

西予市立宇和中学校

人権課題

高齢者

対象学年・
取り扱った教科等

中学3年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・認知症について学び、病気に対する偏見や思い込みをもたず、共に生きていくためのより良い方法を考えていく態度を育てる。
- ・相手の立場になって考え、思いやりの心をもって行動する意欲を養う。

実施した内容

- ・西予市役所の職員を講師に、認知症について、どのような病気か、どのように接することが大切かなどについて理解を深める。（2時間）
- ・西予市社会福祉協議会の職員を講師に、高齢者疑似体験やミュージックケア、お手玉体験を実施し、身体機能の変化や日常生活における不自由さについて体験する。（2時間）
- ・講演や体験を通して学んだことをまとめ、自分たちに何ができるかを考える。

工夫した点

- ・高齢者の疑似体験グッズを実際に着用させて体験させることで、誰もが年齢と共に様々な機能が変わることや生活するうえでの不自由さを実感を伴って理解させた。
- ・疑似体験を行う際に、サポートする立場も経験することで、自分に何ができるかを実践的に考えられるようにした。
- ・体験や学習の後に振り返りをさせることで、理解の深まりや実践意欲につながられるようにした。

他教科との
関連

- ・技術・家庭科「家族や地域の高齢者との関わり」

事業成果

- ・知識的側面：認知症をはじめとする高齢者についての正しい知識を身に付けた。
- ・価値・態度的側面：実践後に、高齢者を支えていこうとする感想が多く見られた。
- ・技能的側面：疑似体験をしたことで、困っている人への声掛けや具体的なサポートのスキルが高まった。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

愛媛県

学校名

西予市立宇和中学校

人権課題

障害者

対象学年・
取り扱った教科等全学年・
学級活動 学校行事

目標・人権教育のねらい

- ・障がいの有無に関わらず誰もが生き生きと自分らしく生活できる社会をつくる一員であるという自覚を持たせる。
- ・障がいのある人との交流を行う中で、互いの個性を認め合い、多様性を理解し、尊重しようとする態度を育てる。

実施した内容

- ・「あすチャレ！スクール」事業で、男子車いすバスケットボール元日本代表選手の方の講演会を聞く。（2時間）
- ・実際に競技用車いすに乗って、車いすバスケットボールの体験を行い、気づきを共有する。
- ・特別支援学校と年2回の交流活動を行う。

工夫した点

- ・実際に車いすに乗って体験を行うことで、障がいのある人の立場から考えさせた。
- ・講演会や特別支援学校との交流の後に、振り返りを行うことで、他人事で終わるのではなく、自分事として考えさせる機会とした。
- ・限られた交流の時間を充実したものにするために、知っておくとよいことや、配慮すべき点について事前に特別支援学校の教員から直接話をいただいた。

他教科との
関連

- ・社会科において、基本的人権について学習した。

事業成果

- ・知識的側面：「自分や周囲の人を含めて、人は誰でも生き生きと生活できるはずだと思うか」に対して肯定的な回答率が4%増えた。
- ・価値・態度的側面：「人と関わる時には、互いの立場を尊重しようとしているか」に対して否定的な回答率が減り、96%の肯定的回答率を得ることができた。
- ・技能的側面：「周りに困っている人がいたら支えたり、助けたりしているか」に対して、95%を超える達成率を維持することができた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

愛媛県

学校名

西予市立宇和中学校

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等中学2年生・道徳科
総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・差別に立ち向かった人々の生き方を通して、差別をなくしていくには、差別を受けている人たちだけではなく、誰もが差別解消の主体者であることに気付かせる。
- ・差別を受けてきた人々の思いや差別に立ち向かおうと立ち上がった理由を考える中で、被差別の立場から差別解消に取り組むことの大切さを理解させる。

実施した内容

- ・総合的な学習の時間に学年集会を開き、人権獲得の歴史についてこれまで学習した内容を再確認する。
- ・江戸時代以降の差別政策、明治政府の「解放令」などの歴史的事実を学習する。
- ・映像資料「三月三日の風」を視聴して、差別に立ち向かった人々の思いや行動について考える。

工夫した点

- ・「三月三日の風」を視聴後にクラスミーティングを行い、自分の感じたことを伝え合う場を設定した。
- ・他人事にならないように、授業や集会では、自分がその立場になったらという視点で考えさせる場面を必ず設け、自分事として考えられるようにした。
- ・学習の様子や学習した内容を、学級通信やホームページに載せ、家庭で家族と話し合う場を設定した。

他教科との
関連

- ・社会科において、同和問題の歴史的背景について学習した。

事業成果

- ・知識的側面：「他人の人権を侵害する行為は行ってはならないと思うか」に対して、98%を超える肯定的回答率を維持できた。
- ・価値・態度的側面：差別をなくすためには、自分が行動を起こすことが大切であることを感想に書いた生徒が多くいた。
- ・技能的側面：「誰かが辛い思いをしているとき、一緒に考えようとしているか」に対して、肯定的回答率が2%増え、95%の肯定的な結果を得ることができた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

愛媛県

学校名

西予市立宇和中学校

人権課題

ハンセン病患者等

対象学年・
取り扱った教科等

中学1年生・道徳科

目標・人権教育のねらい

- ・差別の背景やハンセン病元患者の思いを知ること、差別解消に向けた考え方や心情を育む。
- ・ハンセン病元患者が受けた差別について考えることで、差別解消に向けて何が必要かを考え、自ら行動しようとする思いを高める。

実施した内容

- ・ハンセン病とはどのような病気で、どのような政策がなされてきたかについて知る。
- ・ハンセン病元患者の方が、ハンセン病が完治してもふるさとに帰ることができなかった理由についてグループで考える。
- ・ハンセン病元患者及び、その家族の方の思いを考え、自分たちにできることについて考える。

工夫した点

- ・ハンセン病について生徒全員が正しく理解できるよう、イラストや写真、表など視覚的に訴えるスライドを作成し、授業で活用した。
- ・ハンセン病に関する偏見や差別を自分事として考えさせるために、地元のハンセン病元患者の方の詩を授業に用いた。
- ・昔の問題ではなく、今もこの差別によって苦しんでいる人がいることを認識させる。
- ・授業後に、ハンセン病に関する掲示物を作成し、事後の啓発を行った。

他教科との
関連

- ・社会科において、基本的人権について学習した。

事業成果

- ・知識的側面：ハンセン病やそれに関わる政策について、正しく理解した。
- ・価値・態度的側面：ハンセン病に対する差別のような問題を二度と繰り返さないようにしたいという感想が多く見られた。
- ・技能的側面：「自分が正しいと思ったことを人に伝えたり、行動に移したりできるか」に対して、否定的な回答率が2%減り、改善が見られた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

愛媛県

学校名

西予市立宇和中学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等

全学年・学校行事 道徳科

目標・人権教育のねらい

- ・ インターネットを使う上でのモラルやマナーについての知識を深め、インターネットによる人権侵害をしたり、トラブルに巻き込まれたりしないようなネット活用能力を身に付けさせる。
- ・ SNS等における差別、偏見、誹謗中傷問題について正しく学び、理解させる。

実施した内容

- ・ SNSによる人権侵害をテーマに、日常生活での困りごとについて意見交流した。
- ・ 情報モラルの専門家を講師として招き、「ネットの危険性に関する講演会」を行った。

工夫した点

- ・ 授業では、誰にでも起こりうる場面を扱い、自分だったらどうするかという視点を持たせて考えさせた。
- ・ インターネットやSNSは今後の生活に欠かせないツールになりつつあり、正しい使い方をするためには、人権感覚を磨くことが重要であることを押さえた。
- ・ 講師と事前に十分な情報交換を行い、本校の現状に即した講話や映像資料を用いることで生徒が自分事として捉えられるようにした。

他教科との
関連

- ・ 技術・家庭科において情報モラルについて学習した。

事業成果

- ・ 知識的側面：「他人の人権を侵害する行為は行ってはならないと思うか」に対して、98%を超える肯定的回答率を維持できた。
- ・ 価値・態度的側面：授業や講演の後の感想では、SNSの使い方を見直そうとする感想が多く見られた。
- ・ 技能的側面：「友達が間違っていたら注意をしているか」に対して9割の肯定的回答率を維持することができた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

愛媛県

学校名

西予市立宇和中学校

人権課題

性的指向、性自認

対象学年・
取り扱った教科等

中学2年生・道徳科 学校行事

目標・人権教育のねらい

- ・性の多様性について理解を深め、性的指向や性自認を理由とする差別や偏見のない社会をつくるために自分のできることについて考え、実践しようとする態度を育てる。
- ・性の多様性について、正しい知識と認識を深め、誰もが一人の人間として、自分らしい生き方ができる社会をつくろうとする意欲を育てる。

実施した内容

- ・スライド資料を通して、体の性、心の性、好きになる性、表現する性の4つの要素から性を捉え、性は多様なものであることを理解する。
- ・「あなたがあなたらしく生きるために～性的マイノリティと人権～」を視聴して、主人公の気持ちに寄り添いながら、その場に自分がいたら何ができるかを考える。
- ・当事者団体の代表の方からLGBTQに関する講演を聞き、感想を交流する。

工夫した点

- ・アウティングの危険性についての理解を深めさせたり、肯定的なメッセージを送るなど、クラスや集団の中に性的マイノリティ当事者がいることを前提として授業を行った。
- ・性的マイノリティ当事者の講演を聞くことにより、生き生きと生きる姿に共感させ、差別や偏見を持たず、多様性を認め合う意識や態度を育てることにつながるようにした。
- ・学級や校内にLGBTQに関する掲示を行い、事後指導や啓発を図った。

他教科との
関連

- ・保健体育科の授業で、性に関することについて学習した。

事業成果

- ・知識的側面：「考え方や感じ方には人それぞれ違いがあってよいと思うか」に対して、肯定的回答率が増え、99%になった。
- ・価値・態度的側面：「人と関わる時には、互いの立場を尊重しようとしているか」に対して、否定的な回答率が減り、96%の肯定的回答率を得ることができた。
- ・技能的側面：言葉や行動など、性的マイノリティ当事者がいることを前提とした言動が多くみられるようになった。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

愛媛県

学校名

西予市立宇和中学校

人権課題

その他（コロナ差別）

対象学年・
取り扱った教科等

全学年・特別活動

目標・人権教育のねらい

- ・間違っただ情報や不確かな情報に惑わされることなく、正確な情報をもとに適切な行動ができるようにする。
- ・誹謗中傷や差別などをしない、させない、許さない態度を養う。

実施した内容

- ・新型コロナウイルス感染症について正しい知識を得る。
- ・東日本大震災の際の風評被害をテーマにした人権劇を制作、披露し、噂やデマをもとにした差別について考える。

工夫した点

- ・生徒会の健康委員会を中心に、新型コロナウイルス感染症に関する掲示物や保健だよりを作成し、正しい知識を得る環境づくりと啓発に努めた。
- ・人権劇を制作する際に、「その登場人物だったらどのような言葉を発するか、どのような気持ちになるか」などを当事者の立場になって生徒に考えさせた。

他教科との
関連

- ・保健体育科において、感染症について学習した。

事業成果

- ・知識的側面：新型コロナウイルス感染症に関する正しい知識や認識を身に付けた。
- ・価値・態度的側面：当事者の立場や気持ちを考えた行動を取ろうとする姿勢が見られた。
- ・技能的側面：「誰かが辛い思いをしているとき、一緒に考えようとしているか」に対して、肯定的回答率が2%増え、95%の結果を得ることができた。